



つどい

《ミモザ》

ミモザは国際女性デー(3月8日)のシンボルの花

編集・発行/土浦市女性団体連絡協議会

地域とともに～女性団体のこれから 土浦市女性団体連絡協議会 会長 今高 博子



3月8日各新聞紙面はミモザの花、黄色で彩られ、「国際女性デー」が強調されていました。根強く残るジェンダー問題の解消にやっと社会全体で理解されつつあるという印象です。

私たち女性団体も昨年30周年を迎え、性や家庭、仕事で直面する女性の困難な問題についてさまざまな事業を行ってきました。今年は特にのぼり旗に「DVや虐待をなくそう」と書き、土浦駅の通学・通勤の皆さんや土浦市内6地区の公民館文化祭の参加者に「周りの人にも声をかけて～」と言いながら相談先を書き込んだポケットティッシュを手渡しました。また、例年行っている男女共同参画×市民協働フェスティバルでは「令和時代の男女共同参画」と題して萩原なつ子先生の講演会を開催し、市民約300名に参加していただきました。

更にアフターコロナになって、久しぶりに所属団体会員が一堂に会して最近の活動状況を話し合い、親睦を兼ねた交流も行いました。各団体が地域において多種多様なボランティア活動を行い、地域を支えていることを改めて強く感じると同時に、現場を知っている団体の声をまとめて女性団体として政策決定に参画していくことの役割は非常に重要であると再認識しました。

しかしながら、一方で女性団体会員の高齢化、「いつまで活動を続けられるか」など、切実な声が聞こえてきます。今後、一定の道筋をつけて、すそ野を広げ、さらに発信力を高めながら次世代に引き継いでいくことは待ったなしの課題です。

昨今の急激な社会変化は、未来をしっかりと築いていくためのチャレンジ力が求められています。これまで30年間、先輩会員が発展させてきた女性団体の理念を引き継ぎ、性別に関係なく仲間をふやし、だれもが尊厳をもって生きられる自由で公正な社会をみんなで創っていかけることを切に願っています。



「女性に対する暴力をなくす運動」

啓発活動



日時：令和5年11月15日(水)
7:30～ 15:00～
場所：土浦駅西口

登下校中の高校生や通勤途中の皆さんに、相談窓口を記載したティッシュを配り、啓発しました。

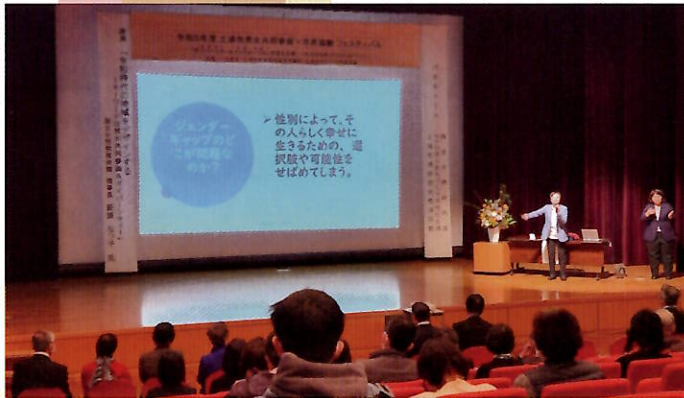
DV撲滅訴訟 啓発品を配布
土浦市女性団体連絡協議会(今高博子会長)は15日、市内で啓発キャンペーンを行った。同会スタッフや職員など10人が参加し、JR土浦駅西口周辺で「DV防止月間です」と呼びかけながら、相談窓口の連絡先が書かれたティッシュのポケットティッシュを10個を通勤通学客に配った。

土浦市では国の「女性に対する暴力をなくす運動」(11月15日)を前に、土浦市女性団体連絡協議会(今高博子会長)は15日、市内で啓発キャンペーンを行った。同会スタッフや職員など10人が参加し、JR土浦駅西口周辺で「DV防止月間です」と呼びかけながら、相談窓口の連絡先が書かれたティッシュのポケットティッシュを10個を通勤通学客に配った。

11月24日付
茨城新聞

啓発品を配布する土浦市大和町
紫色に点灯。市役所でハネル啓発などの啓発活動が行っている。
今高会長は、若い世代からDVへの認識が深め、何かあれば相談窓口へ連絡してほしいと話した。

男女共同参画 × 市民協働フェスティバル ダイバーシティ&インクルージョンのまち土浦 ～みんなちがってみんないい～



日時:令和6年1月27日(土)
場所:第1部 県南生涯学習センター
第2部 男女共同参画センター
Gasta 東部ガスLIFE STUDIO

男女共同参画を進める過程での性別役割分担意識や、アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)などの弊害をジョークを交え楽しくわかりやすく話された。また、令和時代の地域づくりとして、結婚、出産、子育ては女性や母親だけの問題でなくむしろ男性の問題として意識や慣習を変える必要がある。多様な市民、特に若者の声を政策に反映していく「住民参画型」が地域づくりに欠かせないと述べていた。

基調講演 「令和時代の地域をデザインする」
～キーワードは男女共同参画&ダイバーシティ～

講師 萩原 なつ子さん
(国立女性教育会館 理事長)

参加者の意見・感想

- 具体的活動に結びつけられる講演でした。
- 難しいテーマを分かりやすく伝えようとする熱意にあふれていた。また聞きたい。
- 知識と長年の継続的な実践に基づくお話で最高でした。
- 「なっちゃんが行く!見るサル、聞くサル、言うサル」という行動力のある先生のお人柄に魅了されました。
- 大切なことはすべての人が希望に応じて取り組むことだと思った。

5F ポスターセッションコーナー



市内38団体が参加

初めてフェスティバルに参加して
かすみがうら市 久保庭 尚子

昨年10月、市内の店舗で演劇の公演を行い、街を歩いて巡る「つち浦々まちなか演劇巡り」を開催し、今回フェスティバルに初参加しました。パネル展では、今まで知らなかった多くの活動に触れ、私たちが根気強く活動を継続していこうという思いを強くしました。第一部の講演では、活動を広げていくうえで「ゆるくつながる」ことが重要だという点が心に強く残りました。他の意見、存在を認め、ゆるく手を結んでいくと。



高校生も
シールアンケートに
参加



れんこんクッキー
いかがですか!



フードコーナー

わたあめ・ポップコーン・コーヒー・れんこんクッキー



リコチャレコーナー

理工チャレンジ(リコチャレ)は、女子生徒の皆さんに理工系分野に興味・関心をもってもらえるように応援する取り組みです。



つちまると
タッチ!

市民ラウンジ ふれあいコーナー

缶バッジづくり・折り紙・バルーンアート

参加者の意見・感想

- 5歳の息子と来ました。女の子と見間違われる息子ですが、ジェンダーについて学びながら子育てしていこうと思います。
- 協働してまちづくりをしていきたいという意識を感じた。若者もつながりたいという気持ちがあるので、この方々につながれたら安心だと思った。
- 高校生が大活躍でしたね。はつらつとしていて元気をもらいました。
- 食生活改善さんのクッキーがおいしかったです。
- 子ども会育成会の方々にも、もっと来場していただきたく思いました。

アンコンシャスバイアスクイズ / (アンコンシャスバイアスとは無意識の偏見や思い込みのこと)

Q

路線バスに高校生の男女が1組だけ乗っています。バス停で女の子を連れて親が乗り込んできました。次のバス停で高校生の男の子が降りました。バスの中男性は全部で何人いるでしょう。

A

運転手の性別や、バスに乗ってきた親子連れの親の性別が明らかではないので、正解は「分からない」です。運転手を男性、親子連れの親を母親と無意識に思うことがよくありますね。

日時: 令和5年10月26日(木)
場所: 男女共同参画センター



質問事項に対しての 環境保全課、環境衛生課から回答

▶▶▶ 道路わきの雑草取りについて

回答 年2回の草刈りを実施しており、2回目については11月中旬を予定している。

▶▶▶ プラごみの活用について

回答 本市においては、容器包装プラスチックを分別し、現在はコース炉化学原料としてリサイクルされている。

▶▶▶ 包装材以外のプラスチック材について

回答 プラスチックを選別、保管する施設が近隣にないため調査研究中。

▶▶▶ エコドライブのすすめはどれくらいの登録があるのか

回答 令和5年10月現在のエコドライブ宣言者数は、2,316人です。

▶▶▶ ゴミがどうしても出るので悩んでいる

回答 負担がない可能な限りのリサイクルにご協力ください。



NPO法人エコレン秋田氏による講演。エコレンは茨城県内で地球温暖化防止活動を展開している実践グループです。



会員 小松崎 久美子

一番心に残った言葉は、地球沸騰です。過去100年単位で気温が1度上がっている。このまま生活を続けると5度くらい上がるとのこと。未来の子どもたちに美しい環境を残したいと思います。そのためにも、今、できること、身の回りの小さなことに目を向けて取り組んでいきたいと思います。「いばらきエコスタイル」や「エコドライブ」等に気を付けていきます。

土浦市総合防災訓練(兼)洪水ハザード内住民避難訓練

会員 青山 のり子

最初に、避難所運営ゲームをしました。避難所全体の構図を見ながら、世帯ごとの状況に応じて避難場所や救援物資の受け入れ、物資の保管場所などを即決していきます。

また担架の代用に毛布を使用して、傷病者を運ぶことを教わりました。毛布の両端を丸めることで容易に運べました。濃煙迷路体験では、煙を吸い込まないように、口に布をあてて、腰を低くして歩くと視界が少しよくなりました。

いろいろと体験しましたが、災害は突然起こるものなので、一度でも訓練しておくとう行動しやすいのではないかと感じました。

日時: 令和5年11月18日(土)
場所: 消防本部屋外訓練場他



簡易トイレ作り



防煙訓練の
建物の前で

防災セミナー

～まさかの事態に対応するには～

日時：令和6年3月16日(土)

場所：二中地区公民館

発災時、避難所には何を持って行くべきか!最低限必要なものは!あると便利なものは!等々、さまざまな災害に合わせて「自分の場合は」という視点で体験してみるの大切さを学び合う講習会を開催しました。

離れていても被災者です

会員 河田 輝子

講話の内容は、能登半島地震での支援活動の様子や、自身が使ってみて本当に役立つ物品の紹介や備蓄品の整理等でした。以前の教えとは相違した知識が数多くありました。そして、何よりも生命が第一であり強い意識を持つことを説いていました。

岡部氏の防災活動のきっかけになった東日本大震災時の住まいのある浦安市の状況は、離れているにもかかわらず、街の86%が液状化現象の被害を受けライフラインが4日間停止した体験でした。しかし、東北とは比較にもならず声を上げることはできない実態だったとか。影響は各地に及んでおり、土浦市でも罹災証明書が発行されていたのを思い返しました。

本会では、以前から防災に関心を持ち様々な研修に取り組んでいます。本日の講演を機にまさかの事態の防災はもちろん、その後の減災となるべき備えを改めて考えると共に、今回の資料と各家庭に届いている土浦市発行の洪水ハザードマップにもじっくり目を通しておきたいと思いました。

誰もが被災者になる

会員 眞山 淑枝

防災、歴史の教訓からの学びも大切だが、それらに固執するのではなく、時代にそった柔軟な対応を心がけていくことも大事なことである。100人近い参加者(市会議員8名)の関心の高さに当会としても、命をテーマにした活動を継続していきたい。

守ろう暮らしを!

私たちの町



講師：岡部 梨恵子氏
(防災アドバイザー 防災士)



軽く、温かく、音もしない防災アルミシートを触って確かめる参加者



便利なキャリーバッグがそうでないことも、よいと思われることにも反対のことがあることを教わった。

私達の町防災交流会

日時：令和4年6月27(月)

場所：男女共同参画センター

浅野先生による「地域防災力と防災意識の向上」についての講話と、市の担当者から防災の実態の説明。その後、活動報告がありました。このような出席者での意見交換会は初めてで、今後も地域で防災意識を共有したいと思います。

講師

減災と男女共同参画研修推進センター
共同代表 浅野 幸子氏

出席者

土浦市女性団体連絡協議会
土浦市まちづくり市民会議
土浦市市民生活部/土浦市防災危機管理課

烏山2丁目地区長 石毛 一美

質疑応答では、女性職員の防災担当部署登用や女性の活動の場を柔軟に広く回ることが、重要且つ大切という指摘がありました。

行政と女性団体、まちづくり市民会議が一堂に会した交流会での発言でもあり、時代の要請に叶った問題提起として印象的でした。

会員 若林 久恵

これからは、地域の防災、復興の基盤づくりとして、地域社会のつながりや若い方々とも一緒になって、地域防災力の向上について、どうすべきか考えていきたいと思っています。

防災には、地域の助け合い(共助)が大切です。それを再確認した有意義な一日でした。

市議会1期生議員との意見交換会

日時: 令和5年11月13日(月)
場所: 男女共同参画センター

～市民の声が土浦を変える～

女性団体では年4回市議会傍聴を行い、市議会議員との意見交換会も開いています。今回は1期生議員と話し合いをしました。

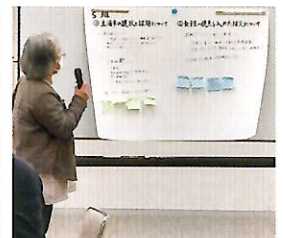


会員 矢口 恵子

今年で5回目となる意見交換会に参加しました。出席者は、男性議員4名と女性議員2名、会員は36名でした。商業の町土浦については、活性化するように活発な意見が出されました。防災については、自然災害が今までになかった異常事態が起こっているの、日ごろから一人一人が自分の身を守る防災意識を心がけたいと思いました。市民の声が市議会議員さんへ届いたと思います。有意義な時間を過ごすことができました。

土浦市議会議員 平岡 房子

12にも及ぶ女性を中心となって運営している団体があることを知りませんでした。素晴らしいことだと思います。今、日本のジェンダー指数は世界で125位、女性の政治参画の割合が極めて低いことがこの指数を下げる要因となっています。ですが、女性が政治的なことに全くかかわらないかと言えば、地域に根ざしたボランティア活動や生活向上のための活動に、数多くの女性が取り組んでいます。しっかりと政治参画をしていると私は思っています。皆さまの活動を応援するとともに、ともに住みよいまちづくりのために取り組んでいきたいと心を新たにしました。私の参加した分散会では、花火大会で多くの人があるのに街中を素通りしていってしまう、もったいないという意見ができました。中心市街地活性化という観点から見ても、一工夫していかなければならないことだと思います。また、防災については、役員に必ず女性を入れるよう要望していこうという意見がありました。災害時、どうしても力のある男性が防災の中心となってしまいますが、避難するのは女性や子ども、高齢者が多くなります。皆さまの要望を反映させるためにも、女性の参画は大切です。今回の交換会で出された意見は、行政に反映出来るよう私たちもしっかりと取り組んで参ります。



会議の最後には、グループの話し合いの内容を報告しあい、共通理解しました。

審議会報告

社会教育委員会議報告

会員 栗栖 恵子
今をどう生きる

2月14日に長谷川幸介氏の講演会に出席した。先生は社会教育の目的は人間の幸せと言い切った。今、私達は未来が不確かな事としてとらえられたのだから、今を出発点として何ができるか。その力が今、求められている。社会転換の真最中だ。自分発見の旅から、地球発見という言葉提起した。

私は考えさせられることが多々あった。

土浦市博物館協議会報告

会員 今泉 芳子

2月21日に博物館と上高津貝塚ふるさと歴史の広場の令和5年度事業経過報告と令和6年度事業計画案の協議会が開催された。

博物館は1年半の休館の後リニューアル開館し、3月まで特別展「土浦のたからもの」が開催されていた。リニューアル後は高校生以下の入館料は無料で、団体料金も設定されている。パンフレットは文字が大きくなり写真の掲載も多くなった。

避難所(H)運営(U)ゲーム(G)でハグ

日時：令和5年11月29日(水)
場所：新治地区公民館



会員 古市 みどり

学ぼうシリーズ「楽しくハグしてHUGしよう」に参加しました。交流会も兼ねて、9つの団体の活動紹介があり、輪投げとボッチャで交流を深めました。仲良くなったところで、「HUG」のゲームが始まりました。災害があったと想定し避難してきた住民をいくつかの共通項・条件で振り分けるというものです。ゲームとしてもかなりハードルの高いものでした。3.11の経験を思うと、防災の必要性和実際にできることを話し合うことが大事ということを改めて実感しました。そして最後にハグして終了!なんて素敵!タイトル通りでした。



避難所運営ゲームをしている会員。避難所の中の対応の仕方を話し合いました。



ボッチャゲームの体験

参加者の感想

交流会は久しぶり!!

- 年に一度くらいはこのような会合が必要だと感じた。
- ゲームをやって全員の距離が縮まってよかった。
- 各団体の活動が分かった。
- HUG は勉強になりました。

土浦市ダイバーシティキックオフセレモニートークショー

これが私。自分らしく生きるために知ってほしい
～LGBTQのこと～

日時：令和5年9月10日(日)
場所：クラフトシビックホール土浦



土浦市は7月1日に「いばらきダイバーシティ宣言」をしました。この宣言をはずみとして、誰一人取り残さないまちを目指しています。

会員 渡辺 久子

振付師KABAちゃんは、性同一性障害を公表後手術を受け戸籍を変更。そして今、女性として自分らしく生きている。ガラリと変わった環境を受け入れ、楽しみ喜んでいる。まだまだ悩み苦しむ人たちに、前向きの気持ちを持つよう、気づいた人は否定せず話を聞いてあげて欲しいと願っている。そして、今日もどこかでこやかに、楽しく仕事をしていることだろう。多様性をみとめることは、それは決して特別なことではないと。

かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン2023

会員 吉田 智子

朝方少し雨が降り天気心配もありましたが、その後気温が急上昇。私たちはバナナやチョコレートを一人ひとりに「お疲れ様です」とお声掛けしながら手渡していきました。足元がふらつく方もいましたが、皆さん「ありがとうございます」と爽やかにお返事してくれました。ほんの一瞬のふれあいですが、何か胸の奥がほっこり温かくなる思いでした。他のボランティア団体の方の献身的な活動も見ていただき刺激を受け、同時に勉強にもなりました。暑く短く、中身の濃い素晴らしい一日になりました。

日時：令和5年4月16日(日)
場所：かすみがうら総合運動公園



この箱のバナナ全部配ります

令和5年度 土浦市女性団体連絡協議会活動報告

自主事業

- ◆ 総会・三部会合同会議 5月22日
- ◆ 女性に対する暴力をなくす運動と啓発活動
各公民館文化祭 土浦駅 11月15日
- ◆ 学ぼうシリーズ(総務、研修部会合同)
「みんなでHUGしてハグしよう」 11月29日
- ◆ 防災セミナー 3月16日
- ◆ 役員会 12回

総務部会

- ◆ 市議会傍聴 4回
- ◆ 土浦市議会一期生議員との意見交換会
～市民の声が土浦を変える～ 11月13日

研修部会

- ◆ 出前授業「STOP!地球温暖化～未来へのアクション～」
10月26日

広報部会

- ◆ つとひ30号発行

共催事業

- ◆ 男女共同参画×市民協働フェスティバル
1月27日

協力事業

- ◆ 第33回かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン 4月16日
- ◆ 土浦市ダイバーシティキックオフセレモニー 9月10日
- ◆ 総合防災訓練(兼)洪水ハザード内住民避難訓練 11月18日
- ◆ 女性に対する暴力をなくす運動啓発事業 11月12日～25日

編集後記

自然災害の恐ろしさと災害への不安は、能登半島を襲った地震でさらに強くなり、防災への意識も高まっています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。本会でも「防災」に力を入れた行事も多く設けられました。地域力を生かして災害に備えたいものです。

原稿をお寄せいただいた皆様ありがとうございました。皆様からのご意見ご感想などをお待ちしています。

編集	今泉芳子	井倉洋子	中江元子
委員	眞山淑枝	稲見清美	岡野正子
	井口礼子	加茂美那子	

連絡先:090-8805-4875(今高)

部会報告

総務部会

部会長 斉藤 真理子

「女性に対する暴力をなくす運動」のためのリボン作りやカードをティッシュに入れる作業をして、各公民館でのぼり旗を立てながら啓発運動をしました。紫色のリボンを胸につけている人が多くいて、ホッコリしました。市議会1期生との意見交換会では声に出して語り合えるすばらしさを感じました。

この一年、総務部会長の仕事に慣れずに緊張しましたが、皆様の温かい言葉かけにより大過なく過ごせたことに感謝します。



チラシとのぼり旗

研修部会

部会長 峯村 きみ子

10月26日に、STOP!地球温暖化の出前授業を開催。それに先立ち、環境保全課、環境衛生課にごみやリサイクルについての質疑の回答をお願いしました。共通して言えることは、自分でできることから始めようと感じました。

11月29日には、総務部会と合同で学ぼうシリーズを開催。所属団体との交流会では、各団体の紹介やゲームで楽しく過ごし、その後避難所運営ゲーム「HUG」では避難所運営の大変さを実感しました。

広報部会

部会長 今泉 芳子

コロナ禍による行動規制が解除されたこともあり、行事が多く設けられました。参加した皆様から多くのご意見や感想をいただき、紙面を構成することができました。写真も多く掲載しましたのでお楽しみください。